令和３年度

# 中川村財務書類

貸借対照表

行政コスト計算書及び純資産変動計算書

資金収支計算書

令和５年３月

中川村

# 中川村令和３年度決算財務書類目次

１　一般会計
(1) 貸借対照表【様式第１号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
(2) 行政コスト及び純資産変動計算書【様式第２号及び第３号（結合)】・・・・ 2
(3) 資金収支計算書【様式第４号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
(4) 付属明細書【様式第５号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
(5) 注記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

２　全体
(1) 貸借対照表【様式第１号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
(2) 行政コスト及び純資産変動計算書【様式第２号及び第３号（結合)】・・・・ 11
(3) 資金収支計算書【様式第４号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
(4) 付属明細書【様式第５号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
(5) 注記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

３　連結
(1) 貸借対照表【様式第１号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
(2) 行政コスト及び純資産変動計算書【様式第２号及び第３号（結合)】・・・・ 19
(3) 資金収支計算書【様式第４号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
(4) 付属明細書【様式第５号】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
(5) 注記　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

４　財務指標
(1) 財政指標（一般会計等、全体、連結）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
(2) 考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

○新地方公会計制度とは

現金主義・単式簿記を特徴とする現在の地方自治体の会計制度に対して、発生主義・複式簿記などの企業会計手法を導入しようとする取組みです。資産・負債などのストック情報や、現金主義の会計制度では見えにくいコストを把握し、自治体の財政状況等をわかりやすく開示するとともに、資産・債務の適正管理や有効活用といった、中・長期的な視点に立った自治体経営の強化に資するものです。

総務省は、地方自治体に対して、固定資産台帳の整備と複式簿記の導入を前提とした「財務書類の作成に関する統一的な基準」による地方公会計の整備を平成29年度までに行うよう求めています。

中川村では、平成27年度に固定資産台帳を整備し、平成27年度決算から統一的な基準による財務書類の作成を行っています。

【様式第1号】

# 一般会計等貸借対照表

一般会計等　（令和 4年 3月31日現在）　（単位：円）

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 23,924,979,177 | 固定負債 | 3,044,689,069 |
| 有形固定資産 | 22,248,766,913 | 地方債 | 2,409,884,069 |
| 事業用資産 | 6,772,425,684 | 長期未払金 | － |
| 土地 | 848,717,776 | 退職手当引当金 | 634,805,000 |
| 立木竹 | 1,471,223,700 | 損失補償等引当金 | － |
| 建物 | 13,433,842,423 | その他 | － |
| 建物減価償却累計額 | △ 9,131,901,404 | 流動負債 | 461,736,667 |
| 工作物 | 902,209,137 | 1年内償還予定地方債 | 378,579,557 |
| 工作物減価償却累計額 | △ 754,965,948 | 未払金 | － |
| 船舶 | － | 未払費用 | － |
| 船舶減価償却累計額 | － | 前受金 | － |
| 浮標等 | － | 前受収益 | － |
| 浮標等減価償却累計額 | － | 賞与等引当金 | 47,201,402 |
| 航空機 | － | 預り金 | 35,955,708 |
| 航空機減価償却累計額 | － | その他 | － |
| その他 | － | 負債合計 | 3,506,425,736 |
| その他減価償却累計額 | － | 【純資産の部】 | |
| 建設仮勘定 | 3,300,000 | 固定資産等形成分 | 25,139,299,177 |
| インフラ資産 | 15,214,777,524 | 余剰分（不足分） | △ 3,010,998,281 |
| 土地 | 426,141,235 | | |
| 建物 | 224,405,802 | | |
| 建物減価償却累計額 | △ 96,833,139 | | |
| 工作物 | 45,934,970,945 | | |
| 工作物減価償却累計額 | △ 31,285,710,319 | | |
| その他 | － | | |
| その他減価償却累計額 | － | | |
| 建設仮勘定 | 11,803,000 | | |
| 物品 | 512,076,707 | | |
| 物品減価償却累計額 | △ 250,513,002 | | |
| 無形固定資産 | 6,766,000 | | |
| ソフトウェア | － | | |
| その他 | 6,766,000 | | |
| 投資その他の資産 | 1,669,446,264 | | |
| 投資及び出資金 | 80,752,000 | | |
| 有価証券 | 21,120,000 | | |
| 出資金 | 59,632,000 | | |
| その他 | － | | |
| 投資損失引当金 | － | | |
| 長期延滞債権 | 7,251,382 | | |
| 長期貸付金 | － | | |
| 基金 | 1,581,589,598 | | |
| 減債基金 | － | | |
| その他 | 1,581,589,598 | | |
| その他 | － | | |
| 徴収不能引当金 | △ 146,716 | | |
| 流動資産 | 1,709,747,455 | | |
| 現金預金 | 491,422,905 | | |
| 未収金 | 4,004,550 | | |
| 短期貸付金 | － | | |
| 基金 | 1,214,320,000 | | |
| 財政調整基金 | 1,071,300,000 | | |
| 減債基金 | 143,020,000 | | |
| 棚卸資産 | － | | |
| その他 | － | | |
| 徴収不能引当金 | － | 純資産合計 | 22,128,300,896 |
| 資産合計 | 25,634,726,632 | 負債及び純資産合計 | 25,634,726,632 |

【様式第2号及び第3号（結合）】

# 一般会計等行政コスト及び純資産変動計算書

自　令和 3年 4月 1日
至　令和 4年 3月31日

一般会計等　　（単位：円）

| 科目 | 金額 | 金額 | |
|---|---|---|---|
| | | 固定資産等形成分 | 余剰分（不足分） |
| 経常費用 | 4,445,572,004 | | |
| 業務費用 | 3,146,318,404 | | |
| 人件費 | 863,151,502 | | |
| 職員給与費 | 576,215,745 | | |
| 賞与等引当金繰入額 | 47,201,402 | | |
| 退職手当引当金繰入額 | － | | |
| その他 | 239,734,355 | | |
| 物件費等 | 2,267,696,759 | | |
| 物件費 | 584,034,528 | | |
| 維持補修費 | 71,126,138 | | |
| 減価償却費 | 1,612,536,093 | | |
| その他 | － | | |
| その他の業務費用 | 15,470,143 | | |
| 支払利息 | 6,301,815 | | |
| 徴収不能引当金繰入額 | 146,716 | | |
| その他 | 9,021,612 | | |
| 移転費用 | 1,299,253,600 | | |
| 補助金等 | 898,170,693 | | |
| 社会保障給付 | 274,768,739 | | |
| 他会計への繰出金 | 125,721,532 | | |
| その他 | 592,636 | | |
| 経常収益 | 281,668,979 | | |
| 使用料及び手数料 | 61,286,921 | | |
| その他 | 220,382,058 | | |
| 純経常行政コスト | 4,163,903,025 | | |
| 臨時損失 | 93,693,125 | | |
| 災害復旧事業費 | 93,309,230 | | |
| 資産除売却損 | 383,895 | | |
| 投資損失引当金繰入額 | － | | |
| 損失補償等引当金繰入額 | － | | |
| その他 | － | | |
| 臨時利益 | 1,253,037 | | |
| 資産売却益 | 1,253,037 | | |
| その他 | － | | |
| 純行政コスト | 4,256,343,113 | | 4,256,343,113 |
| 財源 | 3,780,508,553 | | 3,780,508,553 |
| 税収等 | 2,992,265,302 | | 2,992,265,302 |
| 国県等補助金 | 788,243,251 | | 788,243,251 |
| 本年度差額 | △ 475,834,560 | | △ 475,834,560 |
| 固定資産等の変動（内部変動） | | △ 815,691,127 | 815,691,127 |
| 有形固定資産等の増加 | | 537,315,735 | △ 537,315,735 |
| 有形固定資産等の減少 | | △ 1,618,550,645 | 1,618,550,645 |
| 貸付金・基金等の増加 | | 280,035,434 | △ 280,035,434 |
| 貸付金・基金等の減少 | | △ 14,491,651 | 14,491,651 |
| 資産評価差額 | － | － | |
| 無償所管換等 | － | － | |
| その他 | － | － | － |
| 本年度純資産変動額 | △ 475,834,560 | △ 815,691,127 | 339,856,567 |
| 前年度末純資産残高 | 22,604,135,456 | 25,954,990,304 | △ 3,350,854,848 |
| 本年度末純資産残高 | 22,128,300,896 | 25,139,299,177 | △ 3,010,998,281 |

【様式第4号】

# 一般会計等資金収支計算書

自　令和 3年 4月 1日
至　令和 4年 3月31日

一般会計等　（単位：円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 2,835,333,025 |
| 業務費用支出 | 1,536,079,425 |
| 人件費支出 | 866,213,179 |
| 物件費等支出 | 655,160,666 |
| 支払利息支出 | 6,301,815 |
| その他の支出 | 8,403,765 |
| 移転費用支出 | 1,299,253,600 |
| 補助金等支出 | 898,170,693 |
| 社会保障給付支出 | 274,768,739 |
| 他会計への繰出支出 | 125,721,532 |
| その他の支出 | 592,636 |
| 業務収入 | 3,924,288,288 |
| 税収等収入 | 2,991,816,871 |
| 国県等補助金収入 | 703,244,826 |
| 使用料及び手数料収入 | 61,077,533 |
| その他の収入 | 168,149,058 |
| 臨時支出 | 93,309,230 |
| 災害復旧事業費支出 | 93,309,230 |
| その他の支出 | － |
| 臨時収入 | － |
| 業務活動収支 | 995,646,033 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 814,001,833 |
| 公共施設等整備費支出 | 537,315,735 |
| 基金積立金支出 | 276,686,098 |
| 投資及び出資金支出 | － |
| 貸付金支出 | － |
| その他の支出 | － |
| 投資活動収入 | 102,956,789 |
| 国県等補助金収入 | 84,998,425 |
| 基金取崩収入 | 11,074,670 |
| 貸付金元金回収収入 | － |
| 資産売却収入 | 6,883,694 |
| その他の収入 | － |
| 投資活動収支 | △ 711,045,044 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 504,541,647 |
| 地方債償還支出 | 504,541,647 |
| その他の支出 | － |
| 財務活動収入 | 365,000,000 |
| 地方債発行収入 | 365,000,000 |
| その他の収入 | － |
| 財務活動収支 | △ 139,541,647 |
| 本年度資金収支額 | 145,059,342 |
| 前年度末資金残高 | 310,407,855 |
| 本年度末資金残高 | 455,467,197 |

| | |
|---|---|
| 前年度末歳計外現金残高 | 33,440,876 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 2,514,832 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 35,955,708 |
| 本年度末現金預金残高 | 491,422,905 |

【様式第5号】

# 附属明細書（一般会計等）

1．貸借対照表の内容に関する明細

※下記以外の資産及び負債のうち、その額が資産総額の100分の5を超える科目についても作成する。

（1）資産項目の明細

①有形固定資産の明細

（単位：円）

| 区分 | 前年度末残高<br>（A） | 本年度増加額<br>（B） | 本年度減少額<br>（C） | 本年度末残高<br>（A）＋（B）−（C）<br>（D） | 本年度末<br>減価償却累計額<br>（E） | 本年度償却額<br>（F） | 差引本年度末残高<br>（D）−（E）<br>（G） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業用資産 | 16,493,437,132 | 395,751,844 | 229,895,940 | 16,659,293,036 | 9,886,867,352 | 296,564,525 | 6,772,425,684 |
| 土地 | 847,737,893 | 2,260,328 | 1,280,445 | 848,717,776 | 0 | 0 | 848,717,776 |
| 立木竹 | 1,471,223,700 | 0 | 0 | 1,471,223,700 | 0 | 0 | 1,471,223,700 |
| 建物 | 13,247,076,156 | 204,818,921 | 18,052,654 | 13,433,842,423 | 9,131,901,404 | 282,111,888 | 4,301,941,019 |
| 工作物 | 884,164,997 | 26,794,572 | 8,750,432 | 902,209,137 | 754,965,948 | 14,452,637 | 147,243,189 |
| 船舶 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 浮標等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 航空機 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定 | 43,234,386 | 161,878,023 | 201,812,409 | 3,300,000 | 0 | 0 | 3,300,000 |
| インフラ資産 | 46,303,157,440 | 458,376,457 | 164,212,915 | 46,597,320,982 | 31,382,543,458 | 1,251,986,010 | 15,214,777,524 |
| 土地 | 426,141,235 | 0 | 0 | 426,141,235 | 0 | 0 | 426,141,235 |
| 建物 | 185,456,768 | 38,949,034 | 0 | 224,405,802 | 96,833,139 | 5,492,747 | 127,572,663 |
| 工作物 | 45,604,051,922 | 330,919,023 | 0 | 45,934,970,945 | 31,285,710,319 | 1,246,493,263 | 14,649,260,626 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定 | 87,507,515 | 88,508,400 | 164,212,915 | 11,803,000 | 0 | 0 | 11,803,000 |
| 物品 | 453,189,833 | 58,886,874 | 0 | 512,076,707 | 250,513,002 | 51,590,695 | 261,563,705 |
| 合計 | 63,249,784,405 | 913,015,175 | 394,108,855 | 63,768,690,725 | 41,519,923,812 | 1,600,141,230 | 22,248,766,913 |

## 注記（一般会計等）

１　重要な会計方針

（１）有形固定資産等の評価基準及び評価方法

①　有形固定資産

取得原価により計上しています。

但し、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア　昭和59年以前に取得したもの

再調達原価により計上しています。

但し、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ　昭和60年以降に取得したもの

取得原価が判明している場合：取得原価

取得原価が不明な場合：再調達原価

により計上しています。

但し、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②　無形固定資産

取得原価により計上しています。

但し、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明している場合：取得原価

取得原価が不明な場合：再調達原価

により計上しています。

（２）有価証券等の評価基準及び評価方法

①　市場価格のあるもの

作成基準日時点における市場価格（時価）により計上しています。

②　市場価格のないもの

取得原価による。ただし、実質価額が著しく低下した場合は相当額の減額をおこない計上しています。

（３）有形固定資産等の減価償却方法

①　有形固定資産（土地、立木竹、美術・骨董品、歴史的建造物、建設仮勘定は除く）

定額法により算定しています。

②　無形固定資産（電話加入権、土地の上に存する権利は除く）

定額法により算定しています。

③　耐用年数を経過したものは、備忘価額として1円を計上しています。但し、無形固定資産については、備忘価額を計上していません。

（４）有形固定資産等の耐用年数及び償却率

「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」（昭和40年大蔵省令第15号）による。尚、端数は1円未満切り捨てています。

（５）有形固定資産等の取得価額範囲

有形固定資産等を有償取得した場合その取得価額については、企業会計原則（第三－五－D）に準拠し、当該資産の取得にかかる直接的な対価のほか、付随費用を含めています。

（６）引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

長期延滞債権、未収金、貸付金等の徴収不能及び回収不能に備えるため、過去5年間の平均不能欠損率により見込額を計上しています。

② 賞与等引当金

翌年度6月支給見込額等のうち、作成基準日において当該年度に負担すべき額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された給付額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち按分される額を加算した額を控除した額（地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法による将来負担額）を計上しています。

尚、持分相当の退職手当にかかる基金は組合連結時に計上されます

※退職手当引当金の減額については、行政コスト計算書の「経常収益（その他）」で調整しています。

（７）リース取引の処理方法

リース期間が１年以内及びリース料総額が300万円以下の所有権移転ファイナンス・リース取引、所有権移転外のファイナンス・リース取引については、賃貸借取引に準じた会計処理をおこなっています。

（８）資金収支計算書における資金の範囲

地方自治法第235条の4に規定する、歳計現金及び歳入歳出外現金を範囲としています。

（９）消費税等の会計処理

税込方式による。

（10）その他一般会計等財務書類作成のための基本となる重要な事項

物品においては、一品当たりの取得価額が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。

２　重要な会計方針の変更

重要な会計方針の変更はありません。

３　重要な後発事象

該当する事象はありません。

４　偶発債務

会計年度末において確定債務ではないが、将来、一定の条件を満たすような事態が生じた場合に債務となるもの。

（１）保証債務及び損失補償債務負担の状況

該当はありません。

（２）その他主要な偶発債務

該当する事象はありません。

５　追加情報注記

財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項は次のとおりです。

（１）会計対象範囲

一般会計

（２）一般会計等と普通会計の対象範囲の差異

対象範囲に差異はありません。

（３）出納整理期間について

地方自治法第235条の５の規定により出納整理期間が設けられており（普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する）、当該年度に係る出納整理期間における現金受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

（４）財務書類の表示単位

記載金額は千円未満を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

（５）地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況

実質赤字比率は「一般会計等」、連結実質赤字比率は「一般会計等＋公営事業会計」、実質公債費比率は「一般会計等＋公営事業会計＋一部事務組合・広域連合」、将来負担比率は「一般会計等＋公営事業会計＋一部事務組合・広域連合＋地方公社・第三セクター等」を対象としたものであり、統一的な基準における全体及び連結資金収支計算書の対象会計と異なります。

| 実質赤字比率 | 連結実質赤字比率 | 実質公債費比率 | 将来負担比率 |
|---|---|---|---|
| － | － | -0.1 | － |

（６）利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

該当はありません。

（７）繰越事業に係る将来の支出予定額（債務負担行為）

該当はありません。

（８）減債基金に係る積立不足の有無等

積立不足はありません。

（９）「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に関する情報

① 将来負担に関する情報（地方公共団体財政健全化法における将来負担比率の算定要素）

| | |
|---|---|
| 将来負担額（一般会計等の将来負担額） | 4,654,908千円 |
| 充当可能財源等（基金等将来負担軽減資産） | 7,006,889千円 |
| 実質負債（一般会計等が将来負担すべき実質的債務） | △2,354,981千円 |

② その他比率算定に必要となる情報

| | |
|---|---|
| 元利償還金 | 391,096千円 |
| 準元利償還金 | 121,975千円 |
| 標準財政規模 | 2,783,354千円 |
| 特定財源の額 | 34,334千円 |
| 地方交付税措置算入公債費等の額 | 542,088千円 |

(10) 地方自治法第234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額

該当はありません。

(11) 純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）

固定資産等形成分とは、資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として固定資産等の形態で保有されています。また、余剰分（不足分）とは、消費可能な資源が蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有されています。

(12) 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

① 財務活動収支を除いた収支

| | |
|---|---|
| 業務活動収支（支払利息支出を除く） | 1,001,948千円 |
| 投資活動収支 | △711,045千円 |
| 基礎的財政収支 | 290,903千円 |

② 財務活動収支と投資活動収支における基金繰入金及び基金積立金を除いた収支

| | |
|---|---|
| 業務活動収支（支払利息支出を除く） | 1,001,948千円 |
| 投資活動収支 | △445,434千円 |
| 基礎的財政収支 | 556,514千円 |

（13）既存の決算情報との関連性

| 項目 | 収入（歳入） | 支出（歳出） |
|---|---|---|
| 歳入歳出決算書 | 4,702,653 千円 | 4,247,186 千円 |
| 財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額 | － | － |
| 地方自治法第 233 条の 2 の規定による基金繰入額 | － | － |
| 財務書類の対象となる会計の範囲内の相殺消去に伴う差額 | － | － |
| 資金収支計算書（前年度末資金残高（繰越金）を含む） | 4,702,653 千円 | 4,247,186 千円 |

※資金収支計算書に於ける、前年度末資金残高（繰越金）310,408千円

（14）資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差異

資金収支計算書

| | |
|---|---|
| 業務活動収支 | 995,646千円 |
| 投資活動収入の国県等補助金収入 | 84,998千円 |
| 未収債権、未払債務等の増加（減少） | 51,000千円 |
| 減価償却費 | △1,612,536千円 |
| 賞与等引当金繰入額（増減額） | △47,201千円 |
| 退職手当引当金繰入額（増減額） | 51,536千円 |
| 徴収不能引当金繰入額（増減額） | △147千円 |
| 資産除売却益（損） | 869千円 |
| 純資産変動計算書の本年度差額 | △475,835千円 |

（15）一時借入金の状況

一時借入金の借り入れはありません。

【様式第1号】

# 全体貸借対照表

全体　（令和 4年 3月31日現在）　（単位：円）

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 29,647,246,262 | 固定負債 | 6,697,233,102 |
| 有形固定資産 | 27,887,113,639 | 地方債等 | 3,578,110,042 |
| 事業用資産 | 6,772,425,684 | 長期未払金 | － |
| 土地 | 848,717,776 | 退職手当引当金 | 634,805,000 |
| 立木竹 | 1,471,223,700 | 損失補償等引当金 | － |
| 建物 | 13,433,842,423 | その他 | 2,484,318,060 |
| 建物減価償却累計額 | △ 9,131,901,404 | 流動負債 | 682,252,809 |
| 工作物 | 902,209,137 | 1年内償還予定地方債等 | 574,827,102 |
| 工作物減価償却累計額 | △ 754,965,948 | 未払金 | 22,086,952 |
| 船舶 | － | 未払費用 | － |
| 船舶減価償却累計額 | － | 前受金 | － |
| 浮標等 | － | 前受収益 | － |
| 浮標等減価償却累計額 | － | 賞与等引当金 | 49,383,047 |
| 航空機 | － | 預り金 | 35,955,708 |
| 航空機減価償却累計額 | － | その他 | － |
| その他 | － | 負債合計 | 7,379,485,911 |
| その他減価償却累計額 | － | 【純資産の部】 | |
| 建設仮勘定 | 3,300,000 | 固定資産等形成分 | 30,861,566,262 |
| インフラ資産 | 20,640,299,831 | 余剰分（不足分） | △ 6,556,246,846 |
| 土地 | 479,058,183 | | |
| 建物 | 375,233,893 | | |
| 建物減価償却累計額 | △ 114,807,800 | | |
| 工作物 | 52,176,485,651 | | |
| 工作物減価償却累計額 | △ 32,293,512,446 | | |
| その他 | － | | |
| その他減価償却累計額 | － | | |
| 建設仮勘定 | 17,842,350 | | |
| 物品 | 1,039,113,973 | | |
| 物品減価償却累計額 | △ 564,725,849 | | |
| 無形固定資産 | 20,007,740 | | |
| ソフトウェア | － | | |
| その他 | 20,007,740 | | |
| 投資その他の資産 | 1,740,124,883 | | |
| 投資及び出資金 | 80,752,000 | | |
| 有価証券 | 21,120,000 | | |
| 出資金 | 59,632,000 | | |
| その他 | － | | |
| 投資損失引当金 | － | | |
| 長期延滞債権 | 10,513,402 | | |
| 長期貸付金 | － | | |
| 基金 | 1,649,089,598 | | |
| 減債基金 | － | | |
| その他 | 1,649,089,598 | | |
| その他 | － | | |
| 徴収不能引当金 | △ 230,117 | | |
| 流動資産 | 2,037,559,065 | | |
| 現金預金 | 813,414,530 | | |
| 未収金 | 9,203,270 | | |
| 短期貸付金 | － | | |
| 基金 | 1,214,320,000 | | |
| 財政調整基金 | 1,071,300,000 | | |
| 減債基金 | 143,020,000 | | |
| 棚卸資産 | 842,600 | | |
| その他 | － | | |
| 徴収不能引当金 | △ 221,335 | | |
| 繰延資産 | － | 純資産合計 | 24,305,319,416 |
| 資産合計 | 31,684,805,327 | 負債及び純資産合計 | 31,684,805,327 |

【様式第2号及び第3号（結合）】

# 全体行政コスト及び純資産変動計算書

自　令和 3年 4月 1日
至　令和 4年 3月31日

全体　　（単位：円）

| 科目 | 金額 | 金額 | |
|---|---|---|---|
| | | 固定資産等形成分 | 余剰分（不足分） |
| 経常費用 | 5,638,103,715 | | |
| 業務費用 | 3,580,368,438 | | |
| 人件費 | 892,632,046 | | |
| 職員給与費 | 592,091,260 | | |
| 賞与等引当金繰入額 | 49,383,047 | | |
| 退職手当引当金繰入額 | － | | |
| その他 | 251,157,739 | | |
| 物件費等 | 2,605,111,388 | | |
| 物件費 | 674,069,408 | | |
| 維持補修費 | 88,312,379 | | |
| 減価償却費 | 1,842,729,601 | | |
| その他 | － | | |
| その他の業務費用 | 82,625,004 | | |
| 支払利息 | 35,587,468 | | |
| 徴収不能引当金繰入額 | 355,511 | | |
| その他 | 46,682,025 | | |
| 移転費用 | 2,057,735,277 | | |
| 補助金等 | 1,782,273,102 | | |
| 社会保障給付 | 274,768,739 | | |
| 他会計への繰出金 | － | | |
| その他 | 693,436 | | |
| 経常収益 | 450,441,740 | | |
| 使用料及び手数料 | 222,758,022 | | |
| その他 | 227,683,718 | | |
| 純経常行政コスト | 5,187,661,975 | | |
| 臨時損失 | 93,711,125 | | |
| 災害復旧事業費 | 93,309,230 | | |
| 資産除売却損 | 383,895 | | |
| 投資損失引当金繰入額 | － | | |
| 損失補償等引当金繰入額 | － | | |
| その他 | 18,000 | | |
| 臨時利益 | 1,253,037 | | |
| 資産売却益 | 1,253,037 | | |
| その他 | － | | |
| 純行政コスト | 5,280,120,063 | | 5,280,120,063 |
| 財源 | 4,838,751,208 | | 4,838,751,208 |
| 税収等 | 3,389,686,199 | | 3,389,686,199 |
| 国県等補助金 | 1,449,065,009 | | 1,449,065,009 |
| 本年度差額 | △ 441,368,855 | | △ 441,368,855 |
| 固定資産等の変動（内部変動） | | △ 997,059,153 | 997,059,153 |
| 有形固定資産等の増加 | | 586,773,085 | △ 586,773,085 |
| 有形固定資産等の減少 | | △ 1,859,409,934 | 1,859,409,934 |
| 貸付金・基金等の増加 | | 292,012,326 | △ 292,012,326 |
| 貸付金・基金等の減少 | | △ 16,434,630 | 16,434,630 |
| 資産評価差額 | － | － | |
| 無償所管換等 | － | － | |
| その他 | △ 30,600 | － | △ 30,600 |
| 本年度純資産変動額 | △ 441,399,455 | △ 997,059,153 | 555,659,698 |
| 前年度末純資産残高 | 24,746,718,871 | 31,858,625,415 | △ 7,111,906,544 |
| 本年度末純資産残高 | 24,305,319,416 | 30,861,566,262 | △ 6,556,246,846 |

【様式第4号】

# 全体資金収支計算書

自　令和 3年 4月 1日
至　令和 4年 3月31日

全体　　（単位：円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 3,788,771,204 |
| 業務費用支出 | 1,731,035,927 |
| 人件費支出 | 895,410,009 |
| 物件費等支出 | 762,381,787 |
| 支払利息支出 | 35,587,468 |
| その他の支出 | 37,656,663 |
| 移転費用支出 | 2,057,735,277 |
| 補助金等支出 | 1,782,273,102 |
| 社会保障給付支出 | 274,768,739 |
| 他会計への繰出支出 | － |
| その他の支出 | 693,436 |
| 業務収入 | 5,132,260,039 |
| 税収等収入 | 3,430,570,311 |
| 国県等補助金収入 | 1,301,679,320 |
| 使用料及び手数料収入 | 222,548,634 |
| その他の収入 | 177,461,774 |
| 臨時支出 | 93,309,230 |
| 災害復旧事業費支出 | 93,309,230 |
| その他の支出 | － |
| 臨時収入 | － |
| 業務活動収支 | 1,250,179,605 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 894,313,083 |
| 公共施設等整備費支出 | 607,576,985 |
| 基金積立金支出 | 286,736,098 |
| 投資及び出資金支出 | － |
| 貸付金支出 | － |
| その他の支出 | － |
| 投資活動収入 | 129,023,790 |
| 国県等補助金収入 | 84,998,425 |
| 基金取崩収入 | 11,074,670 |
| 貸付金元金回収収入 | － |
| 資産売却収入 | 6,883,694 |
| その他の収入 | 26,067,001 |
| 投資活動収支 | △ 765,289,293 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 695,515,850 |
| 地方債等償還支出 | 695,515,850 |
| その他の支出 | － |
| 財務活動収入 | 382,900,000 |
| 地方債等発行収入 | 382,900,000 |
| その他の収入 | － |
| 財務活動収支 | △ 312,615,850 |
| 本年度資金収支額 | 172,274,462 |
| 前年度末資金残高 | 605,184,360 |
| 本年度末資金残高 | 777,458,822 |

| | |
|---|---|
| 前年度末歳計外現金残高 | 33,440,876 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 2,514,832 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 35,955,708 |
| 本年度末現金預金残高 | 813,414,530 |

【様式第5号】

# 附属明細書（全体）

## 1．貸借対照表の内容に関する明細

※下記以外の資産及び負債のうち、その額が資産総額の100分の5を超える科目についても作成する。

### （1）資産項目の明細

#### ①有形固定資産の明細

（単位：円）

| 区分 | 前年度末残高<br>（A） | 本年度増加額<br>（B） | 本年度減少額<br>（C） | 本年度末残高<br>（A）＋（B）−（C）<br>（D） | 本年度末<br>減価償却累計額<br>（E） | 本年度償却額<br>（F） | 差引本年度末残高<br>（D）−（E）<br>（G） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業用資産 | 16,493,437,132 | 395,751,844 | 229,895,940 | 16,659,293,036 | 9,886,867,352 | 295,489,417 | 6,772,425,684 |
| 土地 | 847,737,893 | 2,260,328 | 1,280,445 | 848,717,776 | 0 | 0 | 848,717,776 |
| 立木竹 | 1,471,223,700 | 0 | 0 | 1,471,223,700 | 0 | 0 | 1,471,223,700 |
| 建物 | 13,247,076,156 | 204,818,921 | 18,052,654 | 13,433,842,423 | 9,131,901,404 | 282,111,888 | 4,301,941,019 |
| 工作物 | 884,164,997 | 26,794,572 | 8,750,432 | 902,209,137 | 754,965,948 | 13,377,529 | 147,243,189 |
| 船舶 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 浮標等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 航空機 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定 | 43,234,386 | 161,878,023 | 201,812,409 | 3,300,000 | 0 | 0 | 3,300,000 |
| インフラ資産 | 52,724,316,801 | 492,433,807 | 168,130,531 | 53,048,620,077 | 32,408,320,246 | 1,438,422,271 | 20,640,299,831 |
| 土地 | 479,058,183 | 0 | 0 | 479,058,183 | 0 | 0 | 479,058,183 |
| 建物 | 336,284,859 | 38,949,034 | 0 | 375,233,893 | 114,807,800 | 9,919,572 | 260,426,093 |
| 工作物 | 51,821,466,244 | 358,937,023 | 3,917,616 | 52,176,485,651 | 32,293,512,446 | 1,428,502,699 | 19,882,973,205 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定 | 87,507,515 | 94,547,750 | 164,212,915 | 17,842,350 | 0 | 0 | 17,842,350 |
| 物品 | 978,767,877 | 74,286,874 | 13,940,778 | 1,039,113,973 | 564,725,849 | 88,480,377 | 474,388,124 |
| 合計 | 70,196,521,810 | 962,472,525 | 411,967,249 | 70,747,027,086 | 42,859,913,447 | 1,822,392,065 | 27,887,113,639 |

## 注記（全体）

１　重要な会計方針

（１）有形固定資産等の評価基準及び評価方法

①　有形固定資産

取得原価により計上しています。

但し、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア　昭和59年以前に取得したもの

再調達原価により計上しています。

但し、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ　昭和60年以降に取得したもの

取得原価が判明している場合：取得原価

取得原価が不明な場合：再調達原価

により計上しています。

但し､取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②　無形固定資産

取得原価により計上しています。

但し、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明している場合：取得原価

取得原価が不明な場合：再調達原価

により計上しています。

尚、地方公営企業会計基準を適用している会計は、原則、取得原価によります。

（２）有価証券等の評価基準及び評価方法

①　市場価格のあるもの

作成基準日時点における市場価格（時価）により計上しています。

②　市場価格のないもの

取得原価による。ただし、実質価額が著しく低下した場合は相当額の減額をおこない計上しています。

（３）有形固定資産等の減価償却方法

①　有形固定資産（土地、立木竹、美術・骨董品、歴史的建造物、建設仮勘定は除く）

定額法により算定しています。

②　無形固定資産（電話加入権、土地の上に存する権利は除く）

定額法により算定しています。

③　耐用年数を経過したものは、備忘価額として1円を計上しています。但し、無形固定資産については、備忘価額を計上していません。

（４）有形固定資産等の耐用年数及び償却率

「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」（昭和40年大蔵省令第15号）による。尚、端

数は1円未満を切り捨てています。但し、地方公営企業会計基準を適用している会計は、地方公営企業会計基準によります。

（５）有形固定資産等の取得価額範囲

有形固定資産等を有償取得した場合その取得価額については、企業会計原則（第三－五－D）に準拠し、当該資産の取得にかかる直接的な対価のほか、付随費用を含めています。

（６）引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

長期延滞債権、未収金、貸付金等の徴収不能及び回収不能に備えるため、過去5年間の平均不能欠損率により見込額を計上しています。

② 賞与等引当金

翌年度6月支給見込額等のうち、作成基準日において当該年度に負担すべき額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された給付額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち按分される額を加算した額を控除した額（地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法による将来負担額）を計上しています。

尚、持分相当の退職手当にかかる基金は組合連結時に計上されます

※退職手当引当金の減額については、行政コスト計算書の「経常収益（その他）」で調整しています。

（７）リース取引の処理方法

リース期間が１年以内及びリース料総額が300万円以下の所有権移転ファイナンス・リース取引、所有権移転外のファイナンス・リース取引については、賃貸借取引に準じた会計処理をおこなっています。

（８）全体資金収支計算書における資金の範囲

地方自治法第235条の4に規定する、歳計現金及び歳入歳出外現金を範囲としています。

（９）消費税等の会計処理

税込方式による。尚、地方公営企業会計基準を適用している会計は、税抜方式としています。

(10) その他全体財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品においては、一品当たりの取得価額が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています（地方公営企業会計基準適用外会計）。

② 会計間の、繰入繰出額、負担金・補助金等、出資金及び債権債務額等を相殺消去し表示しています。

尚、水道料金、下水道使用料、施設使用料等条例で金額が定められているもの、相対取引で金額が決定されたものを除く取引、「投資と資本の取引」及び「貸付金・借入金等の債権債務の取引」を除き年間取引総額が100万円未満の取引、連結対象団体（会計）が支払った住民税や固定資産税等の税金については、相殺消去の対象外としています。

２　重要な会計方針の変更

重要な会計方針の変更はありません。

３　重要な後発事象

該当する事象はありません。

４　偶発債務

会計年度末において確定債務ではないが、将来、一定の条件を満たすような事態が生じた場合に債務となるもの。

（１）保証債務及び損失補償債務負担の状況

該当はありません。

（２）その他主要な偶発債務

該当する事象はありません。

５　追加情報注記

財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項は次のとおりです。

（１）会計対象範囲

| 会計名 | 区分 | 連結の方法 | 比例連結割合 |
|---|---|---|---|
| 一般会計 | | | － |
| 国民健康保険事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 介護保険事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 後期高齢者医療特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 水道事業会計 | 公営企業会計（法適用） | 全部連結 | － |
| 下水道事業会計 | 公営企業会計（法適用） | 全部連結 | － |

地方公営企業会計基準を適用している会計は、地方公営企業会計基準による法定決算書類を基礎として読替え（組替え）方式により、全部連結をしています。

（２）出納整理期間について

地方自治法第235条の５の規定により出納整理期間が設けられており（根拠条文「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する」）、当該年度に係る出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。尚、地方公営企業会計方式を採用している会計は出納整理期間が無く、出納整理期間中年度に属

する資金等の授受等がある場合は、出納整理期間年度中に資金の受払いが終了したものとして調整しています。

（３）財務書類の表示単位

記載金額は千円未満を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

【様式第1号】

# 連結貸借対照表

連結　（令和 4年 3月31日現在）　（単位：円）

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 固定資産 | 30,273,395,795 | 固定負債 | 7,224,179,552 |
| 有形固定資産 | 28,400,903,740 | 地方債等 | 3,861,330,164 |
| 事業用資産 | 7,218,974,219 | 長期未払金 | 30,000,000 |
| 土地 | 899,887,704 | 退職手当引当金 | 818,645,425 |
| 立木竹 | 1,471,223,700 | 損失補償等引当金 | 1,883,600 |
| 建物 | 13,997,327,648 | その他 | 2,512,320,363 |
| 建物減価償却累計額 | △ 9,447,800,672 | 流動負債 | 770,204,803 |
| 工作物 | 1,142,692,696 | 1年内償還予定地方債等 | 609,496,635 |
| 工作物減価償却累計額 | △ 847,656,857 | 未払金 | 56,830,500 |
| 船舶 | － | 未払費用 | 3,220,307 |
| 船舶減価償却累計額 | － | 前受金 | 37,600 |
| 浮標等 | － | 前受収益 | 64,741 |
| 浮標等減価償却累計額 | － | 賞与等引当金 | 61,572,584 |
| 航空機 | － | 預り金 | 37,816,586 |
| 航空機減価償却累計額 | － | その他 | 1,165,850 |
| その他 | － | 負債合計 | 7,994,384,355 |
| その他減価償却累計額 | － | 【純資産の部】 | |
| 建設仮勘定 | 3,300,000 | 固定資産等形成分 | 31,490,235,578 |
| インフラ資産 | 20,640,299,831 | 余剰分（不足分） | △ 6,818,471,485 |
| 土地 | 479,058,183 | 他団体出資等分 | △ 408,042 |
| 建物 | 375,233,893 | | |
| 建物減価償却累計額 | △ 114,807,800 | | |
| 工作物 | 52,176,485,651 | | |
| 工作物減価償却累計額 | △ 32,293,512,446 | | |
| その他 | － | | |
| その他減価償却累計額 | － | | |
| 建設仮勘定 | 17,842,350 | | |
| 物品 | 1,383,716,818 | | |
| 物品減価償却累計額 | △ 842,087,128 | | |
| 無形固定資産 | 20,231,953 | | |
| ソフトウェア | － | | |
| その他 | 20,231,953 | | |
| 投資その他の資産 | 1,852,260,102 | | |
| 投資及び出資金 | 24,582,320 | | |
| 有価証券 | 7,540,320 | | |
| 出資金 | 17,042,000 | | |
| その他 | － | | |
| 投資損失引当金 | － | | |
| 長期延滞債権 | 10,536,974 | | |
| 長期貸付金 | 3,983,952 | | |
| 基金 | 1,810,788,234 | | |
| 減債基金 | － | | |
| その他 | 1,810,788,234 | | |
| その他 | 5,032,075 | | |
| 徴収不能引当金 | △ 2,663,453 | | |
| 流動資産 | 2,392,344,611 | | |
| 現金預金 | 1,080,787,500 | | |
| 未収金 | 52,999,042 | | |
| 短期貸付金 | － | | |
| 基金 | 1,216,839,783 | | |
| 財政調整基金 | 1,073,819,783 | | |
| 減債基金 | 143,020,000 | | |
| 棚卸資産 | 41,868,221 | | |
| その他 | 71,400 | | |
| 徴収不能引当金 | △ 221,335 | | |
| 繰延資産 | － | 純資産合計 | 24,671,356,051 |
| 資産合計 | 32,665,740,406 | 負債及び純資産合計 | 32,665,740,406 |

【様式第2号及び第3号（結合）】

# 連結行政コスト及び純資産変動計算書

自　令和 3年 4月 1日
至　令和 4年 3月31日

連結　　（単位：円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 経常費用 | 6,500,159,121 |
| 業務費用 | 4,218,386,545 |
| 人件費 | 1,168,895,006 |
| 職員給与費 | 789,482,415 |
| 賞与等引当金繰入額 | 63,227,864 |
| 退職手当引当金繰入額 | 61,078,263 |
| その他 | 255,106,464 |
| 物件費等 | 2,946,889,145 |
| 物件費 | 798,657,834 |
| 維持補修費 | 160,681,517 |
| 減価償却費 | 1,902,898,474 |
| その他 | 84,651,320 |
| その他の業務費用 | 102,602,394 |
| 支払利息 | 36,681,536 |
| 徴収不能引当金繰入額 | 419,270 |
| その他 | 65,501,588 |
| 移転費用 | 2,281,772,576 |
| 補助金等 | 1,448,263,231 |
| 社会保障給付 | 828,817,438 |
| 他会計への繰出金 | 37,217 |
| その他 | 4,654,690 |
| 経常収益 | 758,368,706 |
| 使用料及び手数料 | 445,892,972 |
| その他 | 312,475,734 |
| 純経常行政コスト | 5,741,790,415 |
| 臨時損失 | 98,271,868 |
| 災害復旧事業費 | 93,309,230 |
| 資産除売却損 | 4,944,638 |
| 投資損失引当金繰入額 | － |
| 損失補償等引当金繰入額 | － |
| その他 | 18,000 |
| 臨時利益 | 1,362,337 |
| 資産売却益 | 1,278,657 |
| その他 | 83,680 |

| | | 金額 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 固定資産等形成分 | 余剰分（不足分） | 他団体出資等分 |
| 純行政コスト | 5,838,699,946 | | 5,834,407,862 | 4,292,084 |
| 財源 | 5,342,004,047 | | 5,342,004,047 | － |
| 税収等 | 3,625,089,016 | | 3,625,089,016 | － |
| 国県等補助金 | 1,716,915,031 | | 1,716,915,031 | － |
| 本年度差額 | △ 496,695,899 | | △ 492,403,815 | △ 4,292,084 |
| 固定資産等の変動（内部変動） | | △ 1,046,977,358 | 1,046,977,358 | |
| 有形固定資産等の増加 | | 593,591,589 | △ 593,591,589 | |
| 有形固定資産等の減少 | | △ 1,924,267,417 | 1,924,267,417 | |
| 貸付金・基金等の増加 | | 301,889,880 | △ 301,889,880 | |
| 貸付金・基金等の減少 | | △ 18,191,410 | 18,191,410 | |
| 資産評価差額 | － | － | | |
| 無償所管換等 | 117,634 | 117,634 | | |
| 他団体出資等分の増加 | － | | | － |
| 他団体出資等分の減少 | － | | | － |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | △ 16,578,633 | △ 25,458,406 | 8,879,773 | |
| その他 | △ 282,504 | △ 249,709 | △ 32,795 | |
| 本年度純資産変動額 | △ 513,439,402 | △ 1,072,567,839 | 563,420,521 | △ 4,292,084 |
| 前年度末純資産残高 | 25,184,795,453 | 32,562,803,417 | △ 7,381,892,006 | 3,884,042 |
| 本年度末純資産残高 | 24,671,356,051 | 31,490,235,578 | △ 6,818,471,485 | △ 408,042 |

【様式第4号】

# 連結資金収支計算書

自　令和 3年 4月 1日
至　令和 4年 3月31日

連結　　（単位：円）

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 【業務活動収支】 | |
| 業務支出 | 4,604,218,010 |
| 業務費用支出 | 2,272,145,859 |
| 人件費支出 | 1,119,662,516 |
| 物件費等支出 | 1,059,275,161 |
| 支払利息支出 | 36,681,536 |
| その他の支出 | 56,526,646 |
| 移転費用支出 | 2,332,072,151 |
| 補助金等支出 | 1,448,263,231 |
| 社会保障給付支出 | 828,817,438 |
| 他会計への繰出支出 | 37,217 |
| その他の支出 | 54,954,265 |
| 業務収入 | 5,971,254,503 |
| 税収等収入 | 3,665,973,128 |
| 国県等補助金収入 | 1,569,529,342 |
| 使用料及び手数料収入 | 445,683,584 |
| その他の収入 | 290,068,449 |
| 臨時支出 | 93,309,230 |
| 災害復旧事業費支出 | 93,309,230 |
| その他の支出 | － |
| 臨時収入 | － |
| 業務活動収支 | 1,273,727,263 |
| 【投資活動収支】 | |
| 投資活動支出 | 914,819,396 |
| 公共施設等整備費支出 | 618,281,744 |
| 基金積立金支出 | 296,291,572 |
| 投資及び出資金支出 | － |
| 貸付金支出 | 19,680 |
| その他の支出 | 226,400 |
| 投資活動収入 | 134,986,030 |
| 国県等補助金収入 | 89,441,465 |
| 基金取崩収入 | 12,542,666 |
| 貸付金元金回収収入 | 25,584 |
| 資産売却収入 | 6,909,314 |
| その他の収入 | 26,067,001 |
| 投資活動収支 | △ 779,833,366 |
| 【財務活動収支】 | |
| 財務活動支出 | 721,953,086 |
| 地方債等償還支出 | 718,820,478 |
| その他の支出 | 3,132,608 |
| 財務活動収入 | 418,778,960 |
| 地方債等発行収入 | 410,849,360 |
| その他の収入 | 7,929,600 |
| 財務活動収支 | △ 303,174,126 |
| 本年度資金収支額 | 190,719,771 |
| 前年度末資金残高 | 862,392,957 |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | △ 8,486,534 |
| 本年度末資金残高 | 1,044,626,194 |

| | |
|---|---|
| 前年度末歳計外現金残高 | 33,592,646 |
| 本年度歳計外現金増減額 | 2,595,176 |
| 比例連結割合変更に伴う差額 | △ 26,516 |
| 本年度末歳計外現金残高 | 36,161,306 |
| 本年度末現金預金残高 | 1,080,787,500 |

【様式第５号】

# 附属明細書（連結）

１．貸借対照表の内容に関する明細

※下記以外の資産及び負債のうち、その額が資産総額の100分の5を超える科目についても作成する。

（１）資産項目の明細

①有形固定資産の明細

（単位：円）

| 区分 | 前年度末残高<br>（A） | 本年度増減額<br>（B） | 本年度末残高<br>（A）＋（B）<br>（C） | 本年度末<br>減価償却累計額<br>（D） | 本年度償却額<br>（E） | 本年度末<br>減損損失累計額<br>（F） | 本年度減損額<br>（G） | 差引本年度末残高<br>（C）－（D）<br>（H） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業用資産 | 17,407,728,208 | 106,703,540 | 17,514,431,748 | 10,295,457,529 | 298,500,699 | 0 | 0 | 7,218,974,219 |
| 土地 | 901,240,786 | △1,353,082 | 899,887,704 | 0 | 0 | 0 | 0 | 899,887,704 |
| 立木竹 | 1,471,223,700 | 0 | 1,471,223,700 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,471,223,700 |
| 建物 | 13,858,835,868 | 138,491,780 | 13,997,327,648 | 9,447,800,672 | 261,008,904 | 0 | 0 | 4,549,526,976 |
| 工作物 | 1,133,186,341 | 9,506,355 | 1,142,692,696 | 847,656,857 | 37,491,795 | 0 | 0 | 295,035,839 |
| 船舶 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 浮標等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 航空機 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定 | 43,241,513 | △39,941,513 | 3,300,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,300,000 |
| インフラ資産 | 52,724,316,801 | 324,303,276 | 53,048,620,077 | 32,408,320,246 | 1,438,422,271 | 0 | 0 | 20,640,299,831 |
| 土地 | 479,058,183 | 0 | 479,058,183 | 0 | 0 | 0 | 0 | 479,058,183 |
| 建物 | 336,284,859 | 38,949,034 | 375,233,893 | 114,807,800 | 9,919,572 | 0 | 0 | 260,426,093 |
| 工作物 | 51,821,466,244 | 355,019,407 | 52,176,485,651 | 32,293,512,446 | 1,428,502,699 | 0 | 0 | 19,882,973,205 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設仮勘定 | 87,507,515 | △69,665,165 | 17,842,350 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17,842,350 |
| 物品 | 1,337,980,091 | 45,736,727 | 1,383,716,818 | 842,087,128 | 93,863,297 | 0 | 0 | 541,629,690 |
| 合計 | 71,470,025,100 | 476,743,543 | 71,946,768,643 | 43,545,864,903 | 1,830,786,267 | 0 | 0 | 28,400,903,740 |

## 注記（連結）

１　重要な会計方針

（１）有形固定資産等の評価基準及び評価方法

①　有形固定資産

取得原価により計上しています。

但し、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア　昭和59年以前に取得したもの

再調達原価により計上しています。

但し、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ　昭和60年以降に取得したもの

取得原価が判明している場合：取得原価

取得原価が不明な場合：再調達原価

により計上しています。

但し、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②　無形固定資産

取得原価により計上しています。

但し、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明している場合：取得原価

取得原価が不明な場合：再調達原価

により計上しています。

尚し、地方公営企業会計基準を適用している会計、地方三公社、第三セクター等、及び、連結対象団体においては、原則、取得原価としています。

（２）有価証券等の評価基準及び評価方法

①　市場価格のあるもの

作成基準日時点における市場価格（時価）により計上しています。

②　市場価格のないもの

取得原価による。ただし、実質価額が著しく低下した場合は相当額の減額をおこない計上しています。

（３）有形固定資産等の減価償却方法

①　有形固定資産（土地、立木竹、美術・骨董品、歴史的建造物、建設仮勘定は除く）

定額法により算定しています。

②　無形固定資産（電話加入権、土地の上に存する権利は除く）

定額法により算定しています。

③　耐用年数を経過したものは、備忘価額として1円を計上しています。但し、無形固定資産については、備忘価額を計上していません。

（４）有形固定資産等の耐用年数及び償却率

「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」（昭和40年大蔵省令第15号）による。尚、端数は1円未満を切り捨てています。但し、地方公営企業会計基準を適用している会計は、地方公営企業会計基準によります。

（５）有形固定資産等の取得価額範囲

有形固定資産等を有償取得した場合その取得価額については、企業会計原則（第三－五－D）に準拠し、当該資産の取得にかかる直接的な対価のほか、付随費用を含めています。

（６）引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

長期延滞債権、未収金、貸付金等の徴収不能及び回収不能に備えるため、過去5年間の平均不能欠損率により見込額を計上しています。

② 賞与等引当金

翌年度6月支給見込額等のうち、作成基準日において当該年度に負担すべき額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された給付額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち按分される額を加算した額を控除した額（地方公共団体財政健全化法における退職手当支給額に係る負担見込額算定方法による将来負担額）を計上しています。

尚、一部の連結対象団体においては、主として期末における退職給付債務及び年金資産の見込み額に基づき計上しています。

（７）リース取引の処理方法

リース期間が１年以内及びリース料総額が300万円以下の所有権移転ファイナンス・リース取引、所有権移転外のファイナンス・リース取引については、賃貸借取引に準じた会計処理をおこなっています。

（８）連結資金収支計算書における資金の範囲

地方自治法第235条の4に規定する、歳計現金及び歳入歳出外現金を範囲としています。

（９）消費税等の会計処理

税込方式による。尚、地方公営企業会計基準を適用している会計は、税抜方式としています。

(10) その他連結財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品においては、一品当たりの取得価額が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています（地方公営企業会計基準等適用外会計）

② 会計間の、繰入繰出額、負担金・補助金等、出資金及び債権債務額等を相殺消去し表示しています。

尚、水道料金、下水道使用料、施設使用料等条例で金額が定められているもの、相対取引で金額が決定されたものを除く取引、「投資と資本の取引」及び「貸付金・借入金等の債権債務の取引」を除き年間取引総額が100万円未満の取引、連結対象団体（会計）が支払った住民税や固定資産税等の税金については、相殺消去の対象外としています。

２　重要な会計方針の変更

重要な会計方針の変更はありません。

３　重要な後発事象

該当する事象はありません。

４　偶発債務

会計年度末において確定債務ではないが、将来、一定の条件を満たすような事態が生じた場合に債務となるもの。

（１）保証債務及び損失補償債務負担の状況

該当はありません。

（２）その他主要な偶発債務

該当する事象はありません。

５　追加情報注記

財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項は次のとおりです。

（１）会計対象範囲

| 会計（団体）名 | 区分 | 連結の方法 | 比例連結割合 |
|---|---|---|---|
| 一般会計 | | | － |
| 国民健康保険事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 介護保険事業特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 後期高齢者医療特別会計 | 特別会計 | 全部連結 | － |
| 水道事業会計 | 公営企業会計（法適用） | 全部連結 | － |
| 下水道事業会計 | 公営企業会計（法適用） | 全部連結 | － |
| 上伊那広域連合 | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 3.28% |
| 伊南行政組合 | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 4.00% |
| 長野県後期高齢者医療広域連合 | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.20% |
| 長野県市町村自治振興組合（電子自治体推進事業） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.32% |
| 長野県市町村自治振興組合（電子申請・届出サービス） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.24% |
| 長野県市町村自治振興組合（高速ネットワーク） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.07% |
| 長野県市町村自治振興組合（ｾｷｭﾘﾃｨｸﾗｳﾄﾞ・共同 VDI） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.25% |
| 長野県市町村自治振興組合（子育て支援アプリ） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 5.41% |
| 長野県市町村自治振興組合（自治体向けチャットツール） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.44% |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 長野県市町村総合事務組合（一般会計） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.93% |
| 長野県市町村総合事務組合（非常勤職員公務災害） | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.73% |
| 南信地域町村交通災害共済事務組合 | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 3.01% |
| 長野県地方税滞納整理機構 | 一部事務組合・広域連合 | 比例連結 | 0.08% |
| 中川村土地開発公社 | 地方三公社 | 全部連結 | － |
| 中川観光開発（株） | 第三セクター等 | 全部連結 | － |

① 地方公営企業会計基準を適用している会計、地方三公社、第三セクターは、法定決算書類を基礎として読替え（組替え）方式により連結をしています。

② 一部事務組合・広域連合は、経費負担割合に基づき、比例割合の対象としています。

③ 第三セクター等は、出資割合等が50%を超える団体（出資割合等が50%以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保、若しくは、損失保証を付している等の重要性が有る団体を含みます）は、連結の対象としています。

（２）出納整理期間について

地方自治法第235条の５の規定により出納整理期間が設けられており（根拠条文「普通地方公共団体の出納は、翌年度の5月31日をもって閉鎖する」）、当該年度に係る出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。尚、地方公営企業会計方式を採用している会計は出納整理期間が無く、出納整理期間中年度に属する資金等の授受等がある場合は、出納整理期間年度中に資金の受払いが終了したものとして調整しています。

（３）財務書類の表示単位

記載金額は千円未満を四捨五入しているため、合計が一致しないことがあります。

①住民一人当たり指数

単位：円

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度末住民基本台帳人口（3月31日） | 4,846 | | | 4,795 | | | 4,739 | | |
| （住民一人当たり） | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 資産額（BS） | 5,596,038 | 5,885,573 | 6,094,609 | 5,485,336 | 6,784,056 | 7,006,710 | 5,409,311 | 6,685,969 | 6,892,961 |
| 負債額（総額）（BS） | 756,860 | 913,568 | 1,034,066 | 771,230 | 1,623,114 | 1,754,407 | 739,908 | 1,557,182 | 1,686,935 |
| 負債額（公債）（BS） | 604,432 | 611,876 | 674,335 | 610,637 | 931,294 | 999,456 | 588,408 | 876,332 | 943,411 |
| 純資産額（BS） | 4,839,178 | 4,972,005 | 5,059,388 | 4,714,105 | 5,160,942 | 5,252,304 | 4,669,403 | 5,128,787 | 5,206,026 |
| 人件費（PL） | 126,779 | 130,026 | 189,380 | 169,505 | 175,263 | 237,508 | 182,138 | 188,359 | 246,654 |
| 人件費（CF） | 124,669 | 127,877 | 175,261 | 162,632 | 168,299 | 219,141 | 182,784 | 188,945 | 236,266 |
| 純経常行政コスト（PL） | 810,714 | 1,016,577 | 1,124,490 | 979,243 | 1,181,941 | 1,294,583 | 878,646 | 1,094,674 | 1,211,604 |
| 純行政コスト（PL） | 815,124 | 1,020,987 | 1,129,296 | 995,237 | 1,199,726 | 1,312,408 | 898,152 | 1,114,184 | 1,232,053 |

②【資産形成度】これまでに形成された資産が、歳入の何年分に相当するかを表す。

単位：年

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 歳入額対資産比率 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| | 6.8 | 5.3 | 4.6 | 5.7 | 5.4 | 4.7 | 5.5 | 5.1 | 4.4 |

算定式：(BS)資産合計／（(CF)業務収入＋(CF)臨時収入＋(CF)投資活動収入＋(CF)財務活動収入＋(CF)前年度末資金残高）

※高い程社会資本整備が進んでいる

③【資産形成度】有形固定資産の償却資産について、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを表す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 有形固定資産減価償却率① | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| | 64.2 | 63.5 | 63.3 | 66.3 | 61.2 | 61.0 | 68.2 | 63.2 | 63.1 |

算定式：(BS)減価償却累計額合計／(BS)取得原価合計（土地、立木竹、建設仮勘定を除く）※物品を除く

※高い程老朽化が進んでいる

④【資産形成度】有形固定資産の償却資産について、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを表す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 有形固定資産減価償却率② | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| | 64.0 | 63.4 | 63.2 | 66.1 | 61.0 | 60.9 | 68.1 | 63.1 | 63.0 |

算定式：(BS)減価償却累計額合計／(BS)取得原価合計（土地、立木竹、建設仮勘定を除く）

※高い程老朽化が進んでいる

⑤【世代間公平性】地方公共団体が持つ資産のうち返済義務の無い資産（純資産）の割合、すなわち現世代（住民）の持分の割合を示す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 純資産比率 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| | 86.5 | 84.5 | 83.0 | 85.9 | 76.1 | 75.0 | 86.3 | 76.7 | 75.5 |

算定式：(BS)純資産合計／(BS)資産合計

※低い程将来世代に負担が先送り

⑥【世代間公平性】社会資本の整備の結果を示す有形固定資産のうち、将来世代の負担（地方債）によって形成されている比率。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 社会資本等形成の世代間負担比率 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 単位：千円 |
| （将来世代負担比率） | 11.2 | 10.9 | 11.8 | 11.6 | 14.5 | 15.3 | 12.0 | 14.4 | 15.3 |
| 地方債残高（千円） | 2,929,079 | 2,965,152 | 3,267,827 | 2,928,006 | 4,465,553 | 4,792,393 | 2,788,464 | 4,152,937 | 4,470,827 |
| 特例地方債（千円） | 190,550 | 190,550 | 190,550 | 229,589 | 229,589 | 229,589 | 127,704 | 127,704 | 127,704 |
| 有形・無形固定資産合計（千円） | 24,390,097 | 25,490,353 | 26,089,493 | 23,336,768 | 29,179,758 | 29,775,930 | 22,255,533 | 27,907,122 | 28,421,136 |

算定式：((BS)地方債＋(BS)1年内償還予定地方債） － 特例地方債／((BS)有形固定資産 + (BS)無形固定資産）

※高い程将来世代が負担する割合が高い

⑦【持続可能性（健全性）】財務活動収支と投資活動収支における基金繰入金及び基金積立金を除いた収支のバランスを示す。

単位：千円

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎的財政収支（プライマリーバランス） | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| | 9,585 | 35,215 | 30,793 | 238,857 | 531,964 | 552,167 | 556,514 | 796,139 | 814,324 |

算定式：((CF)業務活動収支＋(CF)支払利息支出)）＋((CF)投資活動収支+(CF)基金積立金支出-(CF)基金取崩収入）

※経年比較

⑧【持続可能性（健全性）】債務償還に充当できる、償還充当限度額（償還財源上限額）に対する実質債務（将来負担額から充当可能財源を控除した債務）の比率

単位：%

| | 令和元年度 | 令和 2年度 | 令和 3年度 |
|---|---|---|---|
| 債務償還比率 | 248.1 | 220.8 | 134.8 |
| 実質債務（千円） | 2,852,633 | 2,552,739 | 1,843,379 |
| 償還財源上限額（千円） | 1,149,923 | 1,156,296 | 1,367,138 |

算定式：(将来負担額－充当可能財源)／(経常一般財源等（歳入）等 － 経常経費充当財源等)

※低い程返済能力が高い

⑨【持続可能性（健全性）】純資産に対する負債の割合を表す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 負債比率 | 15.6 | 18.4 | 20.4 | 16.4 | 31.4 | 33.4 | 15.8 | 30.4 | 32.4 |

算定式：(BS)負債合計／(BS)純資産合計

※低いほど財政状況が健全

⑩【効率性】どれだけの資産でどれだけの行政サービスを提供しているか(資産が効率的に活用されているか)を表す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 行政コスト対公共資産比率 | 16.5 | 20.1 | 23.1 | 20.6 | 20.4 | 23.0 | 20.0 | 20.2 | 22.9 |

算定式：(PL)経常費用／((BS)有形固定資産＋(BS)無形固定資産)

※経年比較

⑪【弾力性】税収等のうち、どれだけが資産形成を伴わない行政コスト（純経常行政コスト）に費消されたのかを示す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 行政コスト対税収等比率（純比率） | 157.2 | 165.4 | 169.7 | 173.6 | 179.2 | 182.1 | 139.2 | 153.0 | 158.4 |

算定式：(PL)純経常行政コスト／(NW)税収等

※高い程資産形成の財源的余裕度が低い

⑫【弾力性】税収等のうち、どれだけが資産形成を伴わない行政コスト（純行政コスト）に費消されたのかを示す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 行政コスト対税収等比率（総比率） | 158.1 | 166.1 | 170.4 | 176.4 | 181.9 | 184.6 | 142.2 | 155.8 | 161.1 |

算定式：(PL)純行政コスト／(NW)税収等

※高い程資産形成の財源的余裕度が低い

⑬【自律性】行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 受益者負担率（純負担率） | 1.5 | 2.8 | 6.2 | 1.3 | 3.7 | 6.6 | 1.4 | 4.0 | 6.9 |

算定式：(PL)使用料及び手数料／(PL)経常費用

※低い程財源充当率が高い

⑭【自律性】行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 受益者負担率（総負担率）① | 2.6 | 3.8 | 9.4 | 2.5 | 4.9 | 9.2 | 6.3 | 8.0 | 11.7 |

算定式：(PL)経常収益／(PL)経常費用

※低い程財源充当率が高い

⑮【自律性】行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表す。

単位：%

| | 令和元年度 | | | 令和 2年度 | | | 令和 3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 | 一般会計等 | 全体 | 連結 |
| 受益者負担率（総負担率）② | 2.6 | 3.8 | 9.4 | 2.5 | 4.9 | 9.2 | 5.2 | 7.1 | 10.9 |

算定式：(PL)経常収益／(PL)経常費用 ※経常収益から引当金戻入額を除く

※低い程財源充当率が高い

令和3年度決算財務指標考察

これまでに形成された資産が、歳入の何年分に相当するかを表す歳入額対資産比率は、年々下降傾向ではあるものの高く、社会資本整備が進んでいるといえます。しかし、有形固定資産のうち償却資産（建物、工作物、物品等）の老朽化の度合いを示す有形固定資産減価償却率は年々上昇しており、老朽化した施設の点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めるなど、適正管理に努める必要があります。また、歳入額対資産比率が高くなると歳入に対して資産の保有が過大となることから、将来的に資産の維持に歳入が拘束される可能性が高くなるため、比率の推移には注意が必要となります。

民間企業の自己資本比率に相当する純資産比率は高く、また、将来世代が負担する割合を示す社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）も低いため、村の財務的な安定性は高いと言えます。

健全性を見てみると、債務償還比率の値は低く、村の返済能力は高いといえます。また、純資産に対する負債の割合を示す負債比率も低く、村の財政状況は健全であることが分かります。

行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表す受益者負担率は、若干低い値となっています。この比率が低い場合は、適正な受益者負担がなく安易に行政サービスを提供していないか、受益者と非受益者との間で負担の公平性が保たれているか、などを検証する必要があります。

特に公共施設については、今後見込まれる人口減少、高齢化、ニーズの変化等に対応するため、施設更新時期等にはその施設に係る事務事業や利用価値について再検討し、縮減、統合、廃止の可能性についても検討していく必要があります。